HITACHI
日立ルームエアコン据付説明書

●据付工事前にお読みになり正しく据え付けてください。
●お客さまに操作方法を取扱説明書でよく説明してください。

HFC採用エアコン

室内機	室外機
RAS-DJ22W形	RAC-DJ22W形
RAS-DJ25W形	RAC-DJ25W形
RAS-DJ28W形	RAC-DJ28W形
RAS-DJ36W形	RAC-DJ36W形
RAS-DJ40W2形	RAC-DJ40W2形
RAS-DJ50W2形	RAC-DJ50W2形

据付工事に必要な工具（◉印はR410A専用工具）

●⊕⊖ドライバー　●巻き尺　●ナイフ　●ペンチ
●パイプカッター　●六角棒スパナ(呼4)　●Pカッター
●Φ65mmホールコアドリル　●真空ポンプ
●スパナまたはモンキーレンチ　●トルクレンチ
◉ポンプアダプタ　◉フレアリングツール　◉ガス漏れ検知器
◉マニホールドバルブ　◉チャージホース　●ポリシン

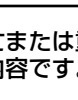
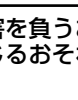
安全上のご注意 必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った据え付け方をしていたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負うおそれまたは物的損害を生じるおそれがある」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は、取扱説明書とともにお客様が保存頂くように依頼してください。

⚠ 警告

●**据付工事は、お買い上げの販売店または、専門業者に依頼する**
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。

●**据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う**
据え付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。

●**据え付けは、重量に十分耐える所で確実に行う**
強度不足や取り付けが不完全な場合は、室内外機の落下により、けがの原因になります。

●**電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、および、据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する**
電気回路容量不足や施工不備があると、感電や火災などの原因になります。

●**接続ケーブルの配線は、途中接続やより線の使用はせず所定のケーブルを使用して確実に接続する**
端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不安定な場合は、故障や火災の原因になります。

●**設置工事部品は、必ず付属部品及び指定の部品（別売部品等）を使用する**
当社指定部品を使用しないと、室内外機の落下・水漏れ・感電・火災および運転音や振動が大きくなる原因になります。

●**エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気などを混入させない**
空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。

●**配管・フレアナットは、必ずR410A指定のものを使用する**
破裂やけがなどの原因になります。

●**フレアナットはトルクレンチを使用し、指定のトルクで締め付けること**
フレアナットを締め付け過ぎると、長期経過後フレアナットが割れて冷媒漏れの原因になります。

●**作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気を行う**
冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

●**設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する**
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

⚠ 警告

●**アース（接地）を確実に行う**
アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しない
アースが不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になります。

●**据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける**
冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂・ケガなどの原因になります。

●**冷媒回収（ポンプダウン）作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する**
圧縮機を運転したまま、サービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂・ケガなどの原因になります。

●**電源コードの加工・途中接続・タコ足配線はしない**
接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災や感電の原因になります。

●**接続ケーブルの配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取り付ける**
カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。

●**電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む**
ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。

⚠ 注意

●**設置場所によっては漏電しゃ断器を取り付ける**
漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電の原因になることがあります。

●**可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へは設置しない**
万一ガスが漏れて室内外機の周囲にたまると、発火の原因になることがあります。



●**排水工事は、据付説明書に従って、確実に排水するよう配管を行う**
不確実な場合は、屋内に浸水し家財などを濡らす原因になることがあります。

据付場所の選定

（下記の点に注意し、お客さまの同意を得て据え付けてください。）

室内機

⚠ 警告

●本体を十分ささえられ、振動が出ない、強度のあるところに据え付ける

⚠ 注意

●近くに熱の発生がなく、吹出口付近をふさがないところ
●本体の上・左・右に下図の⟺印の間隔をあけられるところ
●ドレン排水が容易にでき、室外機と配管接続ができるところ
●可燃性ガスの漏れるおそれのある場所や、蒸気・油煙などの発生しないところ
引火や爆発・樹脂の劣化や破損のおそれがあります。
●室内機およびリモコンはテレビやラジオから1m以上離す
画像の乱れや雑音が入ることがあります。
●高周波機器、高出力の無線機器などからはできるだけ離す
エアコンが誤動作する場合があります。
●電子点灯形の照明器具がある場合は、受信距離が短くなることがあり、場合によっては信号を受け付けないことがあります

室内機（吹出口）を火災警報器から、1.5m以上離して据え付けてください。

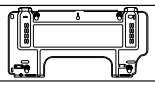
室外機

⚠ 警告

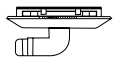
●室外機の重量に十分耐える場所で、騒音や振動が増大しないところに据え付ける

⚠ 注意

●雨や直射日光があたりにくい風通しのよいところ
●吹き出した風が直接動物や植物にあたらないところ
●本体の上・左・右・前・後に下図の⟺印の間隔をあけられ、2面以上開放できるところ
●吹き出した風や騒音がご近所のめいわくにならないところ
●強風の当たらない場所
特にビルの屋上では、風が強く室外ファンが破損することがあります。
●室外機をベランダの手すりに近寄せて設置しない
高層階などのベランダに設置される場合、お子様が室外機の上に乗り、手すりを乗り越え、落下事故につながるおそれがあります。
●可燃性ガスの漏れるおそれのないところや、蒸気や油煙などの発生しないところ
●排出されたドレン水が流れても問題のないところ
●室外機およびFケーブルはテレビ・ラジオ・インターホン・電話などのアンテナ線や信号線・電源コードなどから1m以上離す
ノイズで影響をおよぼす場合があります。

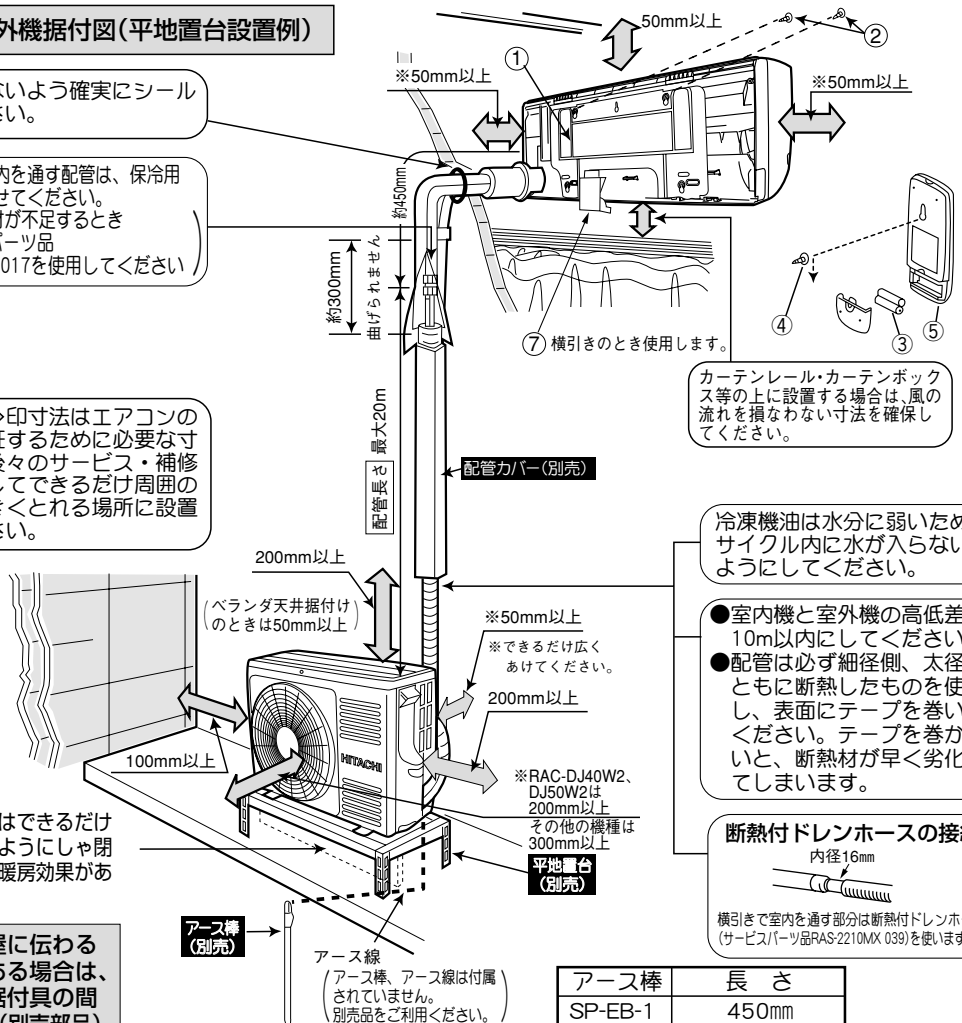
番号	付属部品	員数
①	据付板 	1
②	据付板固定ねじ (4×25)	5
③	乾電池（単4） 	2

番号	付属部品	員数
④	リモコン取付ねじ 	1
⑤	リモコン 	1
⑥	電源スイッチ固定板 	1
⑦	配管押さえ 	1

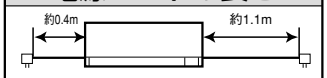
番号	付属部品	員数
⑧	保冷用断熱材 	1
⑨	ブッシュ	1※※
⑩	ドレンパイプ 	1

※⑨⑩は室外機に同梱。
※※RAC-DJ40W2、DJ50W2には2個同梱しています。

室内・室外機据付図（平地置台設置例）

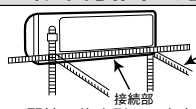


電源コードの長さ



電源コードは絶対に改造しないでください。

配管引出し方向



配管は後直引き、左および右下引き、左および右横引きの6方向に可能です。

冷凍機油は水分に弱いため、サイクル内に水が入らないようにしてください。

●室内機と室外機の高低差は10m以内にしてください。
●配管は必ず細径側、太径側ともに断熱したものを使用し、表面にテープを巻いてください。テープを巻かないと、断熱材が早く劣化してしまいます。

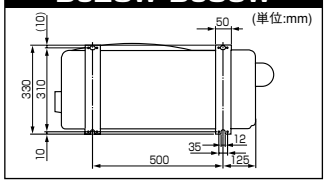
断熱付ドレンホースの接続

横引きで室内を通す部分は断熱付ドレンホース（サービスパーツ品RAS-2210MX 039）を使います。）

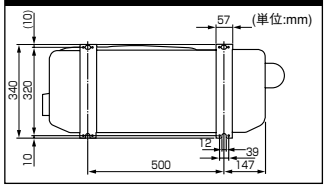
アース棒	長さ
SP-EB-1	450㎜
SP-EB-2	900㎜（D種接地工事推奨品）

室外機の固定足寸法

RAC－DJ22W・DJ25W DJ28W・DJ36W



RAC－DJ40W2・DJ50W2



室内機の据え付け

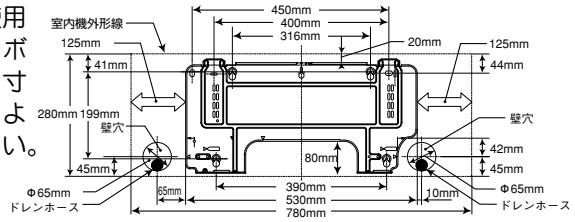
1 据付板の取り付け・壁穴あけ・保護パイプの取り付け

⚠注意

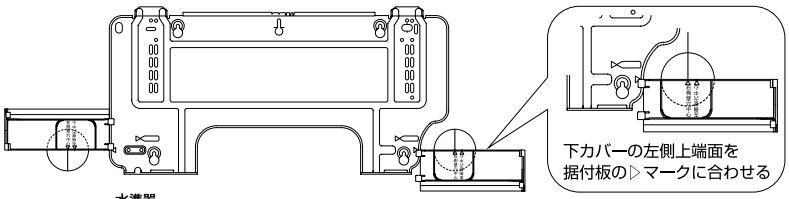
●本室内機はドレンホースを左右どちらにも取り付けられる構造となっています。室内機を据え付ける際は、必ず水平または、ドレンホースを取り付ける側を若干下に傾けて据付板を固定する
ドレンホースを取り付ける側を上方に傾けて据え付けた場合、水漏れとなる恐れがありますのでご注意ください。

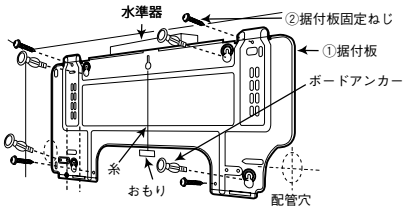
壁に直付する場合

●壁内の構造体(間柱など)をさがして、据付板を固定します。
●間柱などをさがすのが困難なときは、ボードアンカー(市販品)等をご使用ください。
●公団アパート用穴を使用する場合は、アンカーボルトの壁からの出張り寸法が15mm以下になるようにカットしてください。



●壁穴は据付板に下カバーを当てることにより、位置を決めることができます。





ボードアンカーの止め穴

●据付板を壁に当てたまま、ボードアンカーを壁に埋め込みます。
●据付板を下側にずらしてから、ボードアンカーで据付板を固定します。

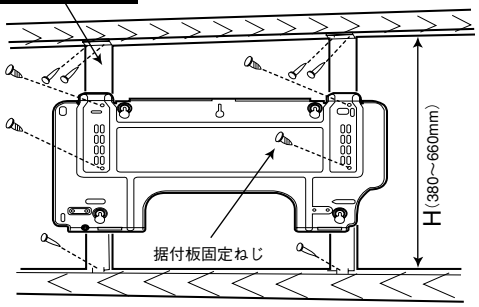
ねじ止めは、できるだけ室内機をひっかける上下の爪の付近で行ってください。また、4本以上のねじで固定してください。

回り縁と鴨居に据え付ける場合

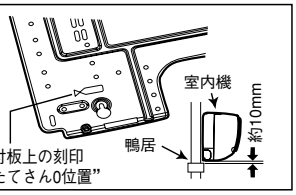
●回り縁と鴨居間の寸法Hに合わせ、据付板とたてさん上下を仮組みします。
●回り縁と鴨居を利用してたてさん上下を仮止めします。
●水平を確認してから固定します。

たてさんは別売です
(形名：SP-BT-2)

たてさん(別売) (下図のねじはたてさんに同梱しています。)



据付板の刻印“たてさん0位置”をたてさん上の目盛“0”に合わせると、室内機と鴨居のすき間が小さくきれいに仕上がります。

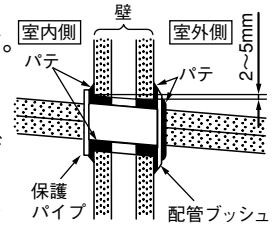


壁穴あけおよび保護パイプの取り付け

⚠警告

●保護パイプ（市販品）は必ず使用する
接続ケーブルが壁の中のメタルラスに接触したり、壁が中空の場合、ねずみにかじられたりして感電や火災の原因となります。
●パテで完全にシールする
壁内や室外の高湿空気が室内に侵入し露たれの原因になります。
また壁内や室外の臭いが室内に侵入する原因となります。

●Φ65mmの穴を外側に下がりぎみにあけます。
●保護パイプを壁の厚さに合わせ切断し壁穴に通します。
●雨水や外気の侵入等がないようパテで完全にシールして配管ブッシュを付けます。

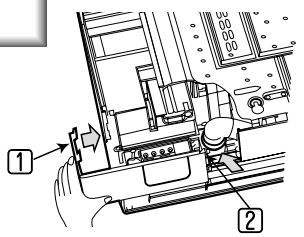


2 室内機の据え付け

① 据え付けの準備

下カバーの取り外し

●下カバーは 1・2部を押しつつ手前に引いて取り外します。

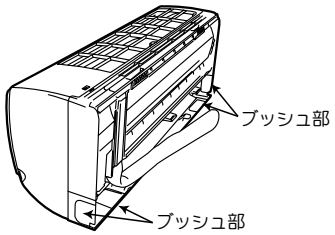


⚠注意

●ドレンホースとドレンキャップは確実に挿入する
挿入が悪いと水漏れの恐れがあります。
●左側にドレンホースを付け替える場合は、周囲の部品に注意してください

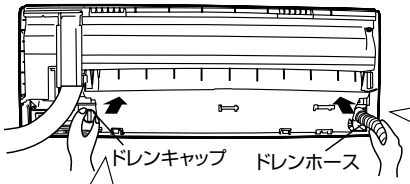
下カバーブッシュ部の切断 (横引き、下引きの場合)

●右または左、あるいは下引き配管時は下カバーのブッシュ部をPカッター等で切り取り、やすりで体裁よく仕上げてください。

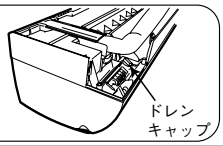


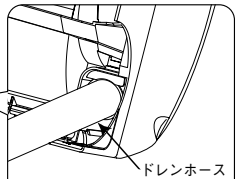
ドレンホースの付け替え (横引きの場合)

●横引き配管時はドレンホースとドレンキャップを下図のように付け替えてください。
●ドレンホースの横引き配管は行わないでください。



●下カバーを外して行います。
●ドレンキャップを突き当たるところまで確実に挿入してください。





●ドレンホースを突き当たるところまで確実に押し込んでください。

●ドレンキャップはペンチを使って回しながら抜きますと簡単に抜けます。



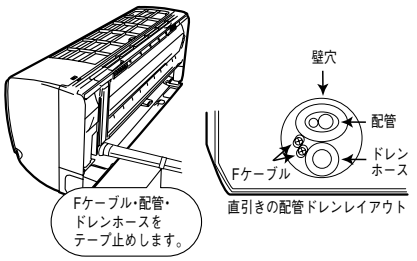
室内機の据え付け（つづき）

配管の準備

（裏面の配管の切断とフレア加工および配管の接続を参照）

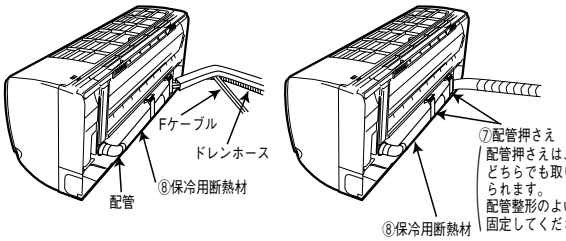
直引き・下引きの場合

●Fケーブルを接続します。
（裏面のFケーブルの接続方法を参照）
●配管を整形し、Fケーブル・ドレンホースとテープで仮止めします。



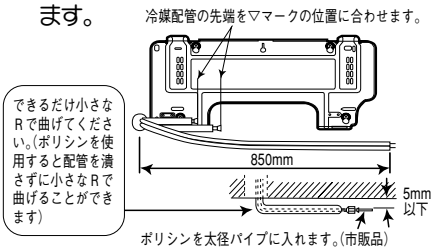
配管を接続してから据え付ける場合(横引きの場合)

●Fケーブルを接続します。
（裏面のFケーブルの接続方法を参照）
●冷媒配管を壁穴位置に合わせて整形し接続します。
●配管接続部は断熱材の割りを上にして隙間のないようにテープ巻きします。
テープは締め過ぎないように巻きます。
●Fケーブル・配管を整形し、室内機背面の下部スペースに納め、配管押さえで固定します。



室内機の背面で冷媒配管を接続する場合

●冷媒配管とFケーブルを整形しセットします。



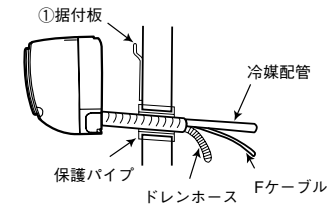
⚠注意

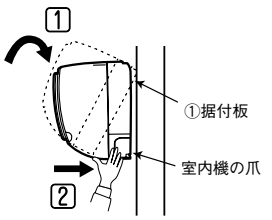
●ポリシンを使用する場合は削り粉が入らないよう必ずフレア加工を行った後に挿入すること

②据え付け

室内機の背面以外で冷媒配管を接続する場合

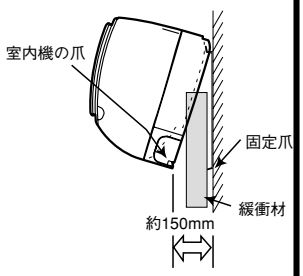
●壁穴に配管を通します。
1室内機の上部を据付板に引っ掛けます。
2室内機下部を壁に押しつけ、室内機の爪を据付板にはめこみます。



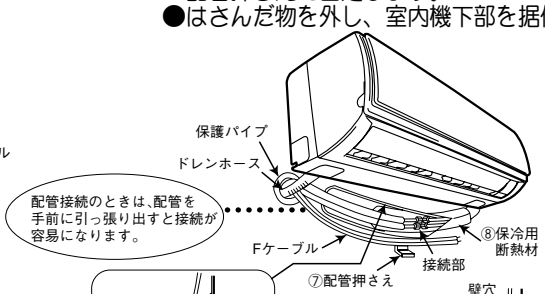


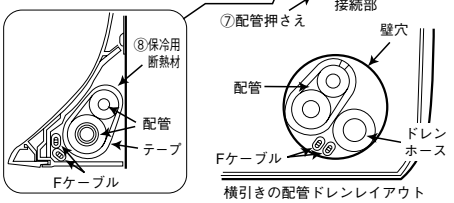
室内機の背面で冷媒配管を接続する場合

室内機を据付板に引っ掛けます。
室内機背面右側に緩衝材または、ダンボールなどをはさみこみ、室内機の下部を手前に150mmぐらい浮かします。



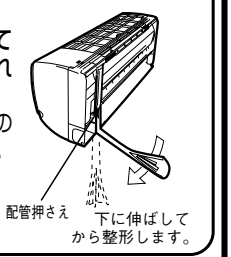
●ドレンホースを壁穴に挿入します。
●冷媒配管を接続します。（裏面の配管の接続を参照）
●配管接続部は断熱材の割りを上にして隙間のないようにテープ巻きします。
●Fケーブルを接続します。（裏面のFケーブルの接続方法を参照）
●Fケーブル・配管を整形し、室内機背面の下部スペースに納め、配管押さえで固定します。
●はさんだ物を外し、室内機下部を据付板の固定爪にはめこみます。





⚠注意

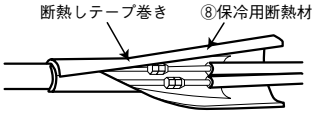
●配管の断熱材のビニールテープ巻きは締め過ぎないこと
断熱効果がなくなり露が付きますので、締め過ぎないように巻いてください。
●室内機の下部を手前に引っ張って据付板に室内機の爪がはめこまれていることを確認する
はめこみが不完全ですと、室内機の振動が大きくなる原因となります。
●配管整形時には、配管押さえの下端部を手で押さえながら、整形してください

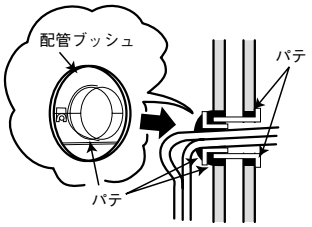


③配管の断熱と仕上げ

●配管接続部は断熱材で覆い、隙間のないようテープ巻きします。
●テープは締め過ぎないように巻きます。隙間があったり締め過ぎたりすると露たれの原因になります。
●配管・Fケーブル等をテープ巻きし、壁に固定します。
●ドレンホースや配管が押入れや廊下など屋内を通る場合は、露付き防止のため保冷用断熱材[サービスパーツ品(RAS-228FX 017)]で覆い断熱の強化をしてください。

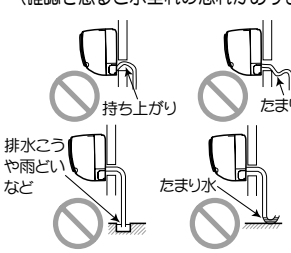
●壁穴部と、配管ブッシュ・配管のすき間を[配管カバー(市販品)を使用した場合も]パテにて完全にシールしてください。シールが完全でないと壁内や室外の高湿空気が侵入し、露たれの原因になります。また、壁内や室外の臭いが室内に侵入する原因になります。





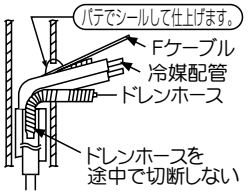
④排水の確認

室内機の据え付け終了後、水を流して確実に排水されることを確認してください。
（確認を怠ると水垂れの恐れがあります）



据付終了後ドレンホースの抜けやたるみのないことを確認してください。

気密性の高い住宅等で換気扇を使用したときなどに、ドレン管付近からゴボゴボと音が発生する場合があります。そのような場合、ドレンタンク(サービスパーツ品 RAS-2810KX500)を使用してください。



室内機のドレンホースは、室外機のバルブカバーへ導かないでください。
使用条件により、バルブカバーより水垂れの恐れがあります。

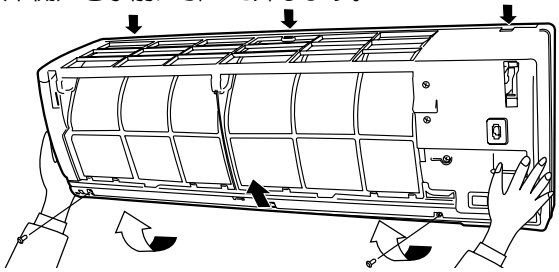
⚠注意

●ドレン工事は、確実に排水できるように配管し、必ず排水の確認を行う
確認を怠ると、水垂れとなることがあります。
●左図のような不具合がないことを確認する
ドレン詰まりをおこし、水垂れとなります。
●ドレンホースは1/25以上の勾配をとること
●埋込配管などでドレンホースをドレン配管に挿入する場合、ドレンホースを途中で切断しない
ドレンホースの断熱性能が低下し、水垂れとなることがあります。
（左図を参照）
●浄化槽など、臭気ガスが発生する場所にドレンホースを導かない
臭気ガスが逆流し、室内の異臭の原因や、銅配管を腐食させることがあります。

室内機の据え付け（つづき）

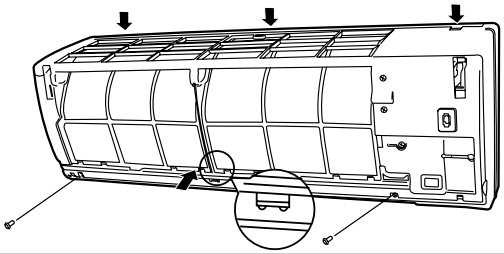
化粧カバーの外しかた

①フロントパネルを取り外します。
（取扱説明書P.15を参照してください）
●フロントパネルの着脱は、必ず両手で行ってください。
②フィルターを取り外します。
（フィルターを外さないと化粧カバーが外れません）
（取扱説明書P.15を参照してください）
③ねじ2本を外した後、化粧カバーの中央部を手前に引き爪を外します。
④上面の爪（3ヵ所）を外し、化粧カバーを図のように側面（下側）を手前に引いて外します。



化粧カバーの取り付けかた

①露皿が確実に取り付けられていることを確認します。
②化粧カバーを本体にはめ込んだあと上面の爪（3ヵ所）を確実にはめ込みます。また中央部を押して、爪を固定します。
③ねじ2本を締め付けます。
④フィルターを取り付けます。
（取扱説明書P.15を参照してください）
⑤フロントパネルの左右アームの軸部を本体のステップに沿って穴に入るまでしっかりと差し込みます。確実に取り付いていることを確認したのち、フロントパネルを閉じます。
（取扱説明書P.15を参照してください）



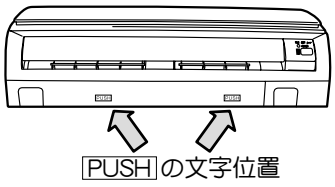
⑤ Fケーブルの接続方法

室内機から電源を取る場合も、室外機から電源を取る場合も、電源は単相100Vまたは単相200Vを使用してください。

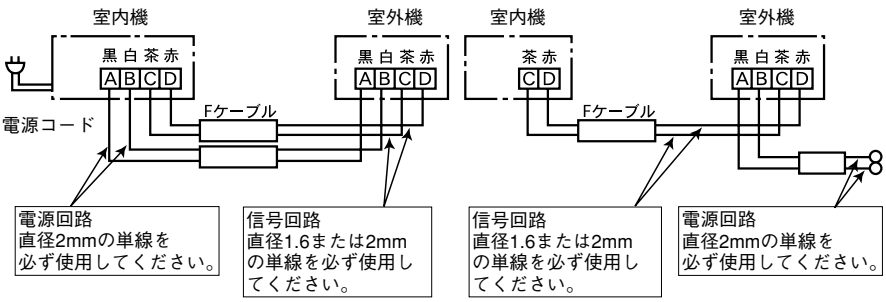
型　式	RAS-DJ22W、DJ25W、DJ28W、DJ36W	RAS-DJ40W2、DJ50W2
電　源	単相100V	単相200V

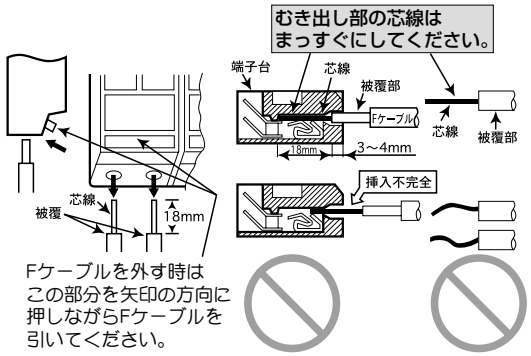
室内機の外しかた

●室内機底面にある PUSH の部分を押し上げながら手前に引くと、爪が据付板より外れます。（右図矢印部2カ所）



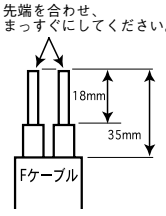
室内機から電源を取る場合　室外機から電源を取る場合





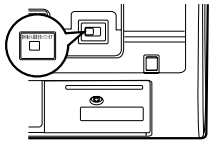
⚠ 警告

●**Fケーブルは、必ず単線を使用する**
より線を使用しますと、端子台が焼損することがあります。
●**Fケーブルを途中で接続しない**
接続部が過熱し、発煙・発火することがあります。
●**Fケーブルの芯線は18㎜（最小でも17㎜、最大でも21㎜）むき出し、被覆が3～4㎜かくれるまで確実に押し込み、各々の線を引っ張って抜けないことを確認する**
挿入が不十分ですと端子台が焼損することがあります。また、むき出し寸法が17mm以下ですと接触不足により、端子台が焼損することがあります。
●**Fケーブルの芯線は先端を合わせ、まっすぐにする**
●**分岐回路はエアコン専用の回路にする**
●**Fケーブルの取付工事は「電気設備に関する技術基準」に従って行う**
●**コンセントは必ず抜いて作業を行う**
室内機から電源を取る場合、電源スイッチが入っていると、FケーブルのＡＢ端子間には常時100Vまたは200Vが印加されています。
●**室外機から電源を取る場合、室内機の電源スイッチを「切」にしても、電源はOFFされないため、そのときはブレーカーを切る**



室外機から電源を取る場合

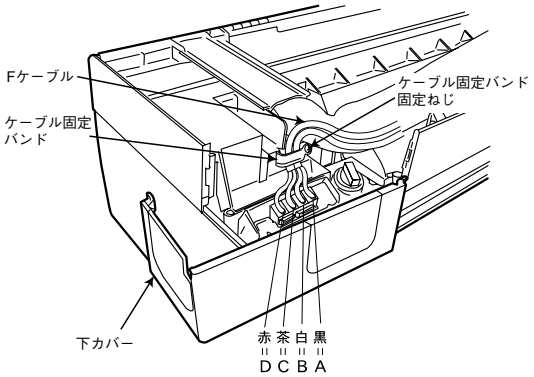
●電源スイッチでは電源をOFFできません。スイッチを「切」の状態にし、⑥電源スイッチ固定板を取り付け、動かないようにしてください。
●電源コードは不要ですので、据付時に室内機背面の下部スペースに納めてください。なお、移設などで電源プラグを再使用するときに、ホコリの付着や汚れなどを防ぐため、据え付け部材のねじを収納しているビニール袋などで電源プラグを包み、テープ止めしたうえで収納してください。
●室内機ＡＢ端子は接続不要です。



室内機の据え付け（つづき）

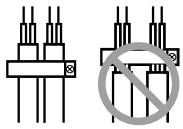
室内機の接続方法

●Fケーブルを接続するときは下カバーを外して行います。



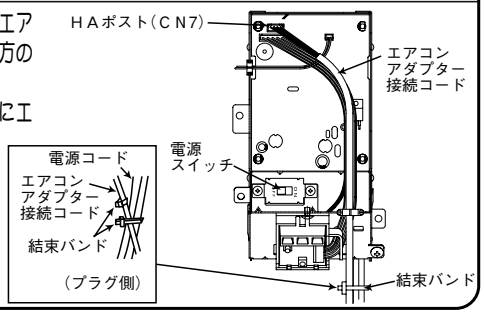
⚠警告

●**Fケーブルはサービス時の作業性を考慮して余裕を持たせて、必ずケーブル固定バンドで止める**
●**ケーブル固定バンドで止めるときは、Fケーブルの外側の被覆部の上から確実に止め、接続部に外力が加わらないようにする**
Fケーブルの接続部に外力が加わると、発熱や火災などの原因になります。



HAシステムと接続するとき

●化粧カバー、電気品フタを外して、右図のようにエアコンアダプター接続コードを引きまわし、基板上方のHA用ポストに確実に挿入してください。
●電気品箱の電源コードの出口付近で、右図のようにエアコンアダプター接続コードの抜け止めをした後、接続コードと電源コードを結束バンドで縛ります。
●配線終了後、元通りにふたをしてください。
●詳しくはHA機器に付属の取扱説明書と合わせて、よくお読みください。



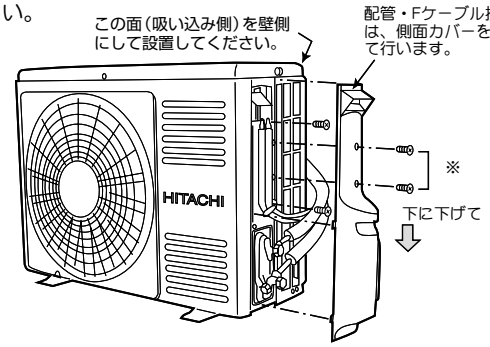
室外機の据え付け

●振動や騒音が増大しないようにしっかりした場所に設置してください。
●配管類を、おおよそ整形して位置を決めてください。
●側面カバーは取っ手を持ち、下方へずらして端部のフックを外してから引いてください。
取り付けるときは、逆の手順で行います。

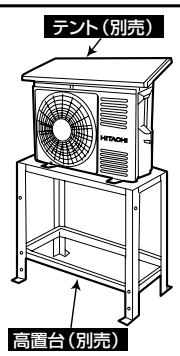
⚠注意

●**室外機の吸い込み口や底面・アルミフィンにさわらない**
ケガの原因になります。

※側面カバーの取付ねじはRAC-DJ40W2,DJ50W2は2本,その他の機種は1本になります。

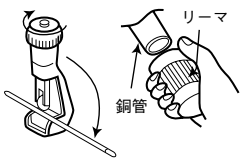


暖房効果を良くするために、雪の多い地方では風通しを妨げないように別売の風雪ガードや高置台を設けてください。
その他の地方では日除けとして別売のテントの取り付けをおすすめします。



① 配管の切断とフレア加工

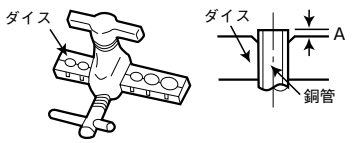
●パイプカッターで切断し、バリ取りを行います。



⚠注意

●**バリ取りをする**
バリ取りをしないとガス漏れの原因になります。
●**切粉が銅管内に入らないように、バリ取り時には銅管を下向きにする**

●フレアナット挿入後フレア加工をしてください。



冷媒配管 ●市販の材料を使用する場合は、次のことを守ってください。

	φ6.35（1/4インチ）	φ9.52（3/8インチ）
肉厚	0.8mm	0.8mm
材料及び規格	リン脱酸銅　C1220T JISH3300（付着油量：40mg/10m以下）	
断熱材	● 耐熱発泡ポリエチレン　比重0.045 肉厚8mm以上 ● 接続配管は1本毎に各々断熱してください	

薄肉管（肉厚：0.7mmなど）は、使用しないでください。

※R410A用専用工具の使用を推奨します。

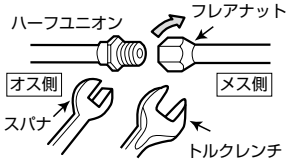
外径（φ）	A（㎜）〔リジット〕	
	R410A用専用工具の場合	R22用専用工具の場合
6.35（1/4インチ）	0～0.5	1.0
9.52（3/8インチ）	0～0.5	1.0

② 配管の接続

●曲げ加工は配管をつぶさないようにしてください。
●接続部に冷凍機油を塗り、中心を合わせフレアナットを手で十分締め付けた後、トルクレンチ（スパナ）で確実に締め付けます。

⚠注意

●**室内機の配管のフレアナットを外す場合は、細径側パイプを先に外す**
太径側から外すとフレア部のシールキャップが飛ぶことがあります。
●**接続時は水分が入らないようにする**
●**フレアナットは必ずトルクレンチを使用し、指定の締め付けトルクで締め付ける**
フレアナットを締め付け過ぎると長期経過後、フレアナットが割れて冷媒漏れの原因になります。



※締め付けトルクは右表に従ってください。

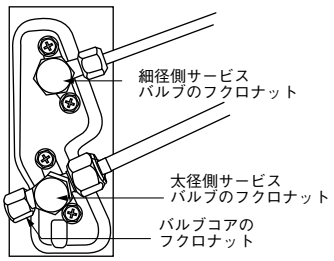
	パイプ外径（φ）	トルクN・m {kgf・cm}
細径側	6.35（1/4インチ）	13.7～18.6 {140～190}
太径側	9.52（3/8インチ）	34.3～44.1 {350～450}
フクロナット		19.6～24.5 {200～250}
バルブコアのフクロナット		12.3～15.7 {125～160}

室外機の据え付け（つづき）

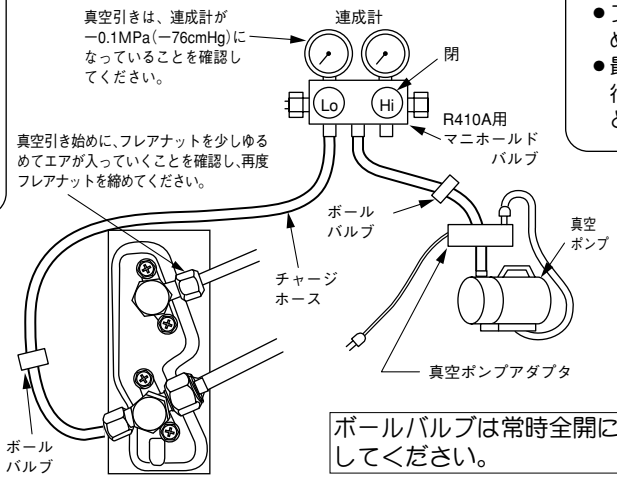
③エアパージおよびガス漏れ検査

地球環境保護の立場から、エアパージは真空引きポンプ方式でお願いします。

❶
- サービスバルブのフクロナットを外します。
- バルブコアのフクロナットを外し、チャージホースを接続します。
- 真空ポンプにポンプアダプタを接続し、アダプタにチャージホースを接続します。



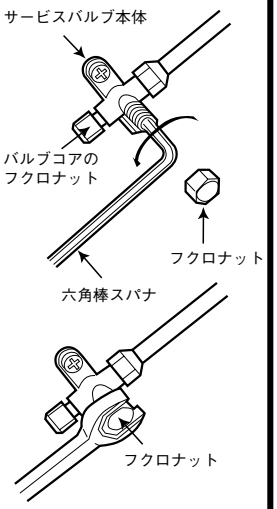
❷
- マニホールドバルブのハンドルＨｉを閉じ、Ｌｏを全開にして、真空ポンプを運転（アダプタ電源ＯＮ）します。
- 真空引きを１０～１５分間行った後、ハンドルＬｏを全閉し、真空ポンプの運転を止めます。（アダプタ電源ＯＦＦ）



ボールバルブは常時全開にしてください。

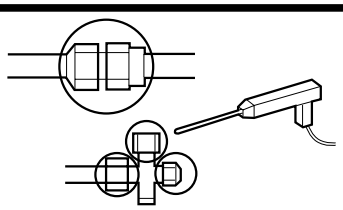
❸
- 細径サービスバルブのスピンドルを1/4回転ゆるめ、5～6秒後すばやく締めます。このときに、接続部のガス漏れ検査を行ってください。
- サービスバルブのチャージホースを外します。

❹
- 両方のサービスバルブのスピンドルを反時計方向に軽く当るまで回し、冷媒通路を開けます。（力いっぱい回す必要はありません）
- フクロナットを元通り締め付けます。
- 最後に、ガス漏れ検査を行い、ガス漏れがないことを確認してください。



ガス漏れ検査

右図の部分をガス漏れ検知器を使用してフレアナット接続部から冷媒漏れがないことを確認します。漏れのある場合は、増締めするなどして、防止してください。（Ｒ４１０Ａ用検知器をご使用ください）



移設時または、取り外し時の作業方法について

地球環境保護の立場から、移設時または取り外し時には冷媒の回収（ポンプダウン）を行ってください。
①強制冷房運転（仕上げの項参照）で5分間程度の予備運転を行います。
②細径サービスバルブのスピンドルを時計回りに回して締めます。
③そのまま強制冷房運転を1～2分間行った後、太径サービスバルブのスピンドルを時計回りに回して締めます。
④強制冷房運転を停止します。

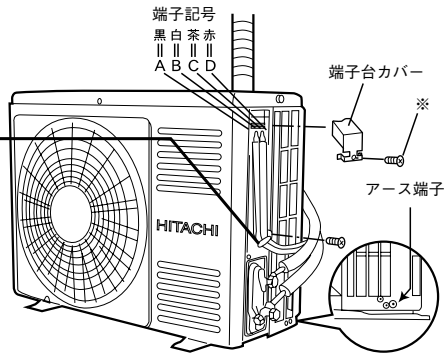
④Fケーブル接続方法

●側面カバー・端子台カバーを外して行います。

※RAC-DJ40W2､DJ50W2は端子台カバーをねじで固定します。

⚠警告

●**必ずバンドで固定する**
固定しないと雨水が電気品に入り感電の原因となります。

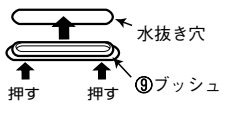


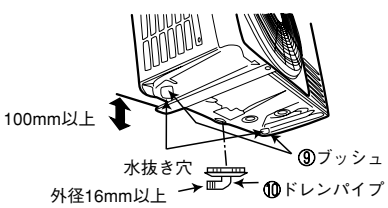
⑤室外凝縮水処理

●室外機のベースには地面に凝縮水を排出するよう穴があいています。
●凝縮水を排水口などに導くときは、平地置台（別売）やブロックなどに載せ地面より100mm以上上げて据え付け、図のようにドレンパイプを接続してください。水抜き穴（RAC-DJ40W2,DJ50W2は2ヵ所､その他の機種は1ヵ所）は､ブッシュでふさいでください。ブッシュの取り付けは、図のように水抜き穴に合わせて、ブッシュの両端を押してはめ込んでください。
●ドレンパイプを接続する場合は、ブッシュがベースから浮いたり、ずれていないことを確認してください。
●室外機は水平に据え付け、凝縮水の排水を確認してください。

●寒冷地でご使用の場合

特に寒冷地等で寒さが厳しく積雪等が多いと、熱交換器から出る水がベース表面に凍結し、排水が悪くなることがあります。
このような地域では、ブッシュ･ドレンパイプは取り付けないでください。水抜き穴と地面との距離を250mm以上確保してください。





仕　上　げ

① アースと漏電しゃ断器

このエアコンは必ずアース工事をしてください。

アース工事は「電気設備に関する技術基準」に従って実施してください。万一の感電事故を防止するほかに、製品に触れたときに感じる静電気の障害や、リモコン操作時にテレビ・ラジオに入る雑音を防ぐ効果もあります。

●接地の基準

接地の基準はエアコンの電源電圧および設置場所により異なります。下表により接地工事を行ってください。

電源の条件 ＼ エアコンの種類 ／ エアコン設置場所	水気のある場所に設置する場合	湿気のある場所に設置する場合	乾燥した場所に設置する場合
対地電圧が150V以下の場合	100Vの機種(含単相3線式200Vの機種)	D種接地工事が必要です。(注ⓐ)	D種接地工事は法的には除外されていますが安全のため接地工事をしてください。(注ⓑ)
対地電圧が150Vを越える場合	3相200Vの機種(含単相2線式200Vの機種)	漏電しゃ断器を取り付けさらにD種接地工事が必要です。(注ⓐ)	

D種接地工事について（注ⓐ）

- 接地工事は電気工事士の方が行ってください。
- 接地抵抗は100Ω以下であることを確認してください。ただし漏電しゃ断器を取り付けた場合は500Ω以下であることを確認してください。

乾燥した場所に設置する場合（注ⓑ）

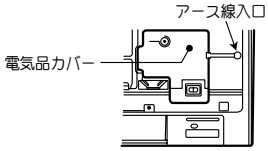
- 接地抵抗は100Ω以下になるようにしてください。最悪でも250Ω以下であることを確認してください。

⚠ 警告

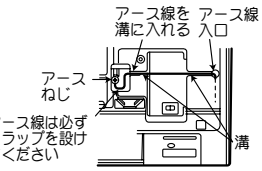
- **アース線は、次のようなところに接続しない**
  (1)水道管 (2)ガス管…引火や爆発の危険があります。
  (3)避雷針・電話のアース線…落雷のとき大きな電流が流れ危険です。
- **室外機または室内機のどちらか一方から必ずアースを行う**
  アース端子は室外機のベース側面(サービスバルブ側)に付いています。また、室内機からアースを取る場合は、右図の順序で接続してください。単相200V機種の場合は、アース付きタンデムコンセントを調達のうえアース工事をしてください。室外機のベース側面(サービスバルブ側)のアース端子にアースを接続してください。
- **室内機からアース(接地)を行う場合は、直径1.6mmの単線(軟銅線)を使用し、確実に固定する**
  より線を使用しますと、凝縮水がアース線から入り、水垂れの原因となります。

室内機にアースを付ける場合

1. フロントパネルを外します。(取扱説明書P.15を参照してください。)
2. 化粧カバーの電気品カバーを外します。

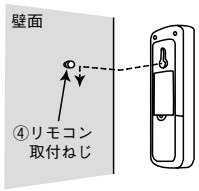


3. アース線を化粧カバー右側のアース線入口に通します。
4. アース線をアースねじで固定します。(アース線は、必ずトラップを設けてください。)
5. アース線を化粧カバーの溝に入れます。(正確に溝に入れてください。電気品カバーが閉まらなくなります。)



6. 電気品カバーを取り付けます。
7. フロントパネルを取り付けます。(取扱説明書P.15を参照してください。)

② リモコンの固定



- リモコンは④リモコン取付ねじで壁や柱に固定することができます。また、リモコンホルダー(別売：SP-RH-1)でも固定することができます。
- リモコンを固定したまま、エアコンを操作するときは信号がエアコンに確実に受信されることを確認してください。なお、蛍光灯により影響され信号が受信されなくなることがありますので、昼間でも点灯して確認してください。
- 一部屋にエアコンを2台設置したとき、リモコンの混信を防ぎたいときは、取扱説明書に記載のお客様ご相談窓口にお問い合せください。

③ 電源と試運転およびチェック

電　源

⚠ 警告

- 電源プラグの改造や電源コードの延長は、絶対にしない
- 電源コードはゆとりをもたせ、電源プラグに力がかからないようにする
- 電源コードはステップルなどで固定しない
- 電源コードは熱を発生しやすいため、針金やビニタイなどでまとめない

⚠ 注意

- コンセントは新しいものを使用する
  古いと電気的接触が不十分で思わぬ事故につながる場合があります
- 電源プラグを差し込むときは2～3回抜き差しを行い、なじませてから完全に差し込む

試運転

- 試運転を行いエアコンが正常に運転することを確認してください。(運転開始時に圧縮機の予備運転を行うため2～5分間風が出ないことがあります)
- 取扱説明書の手順で操作について「お客様」に説明してください。
- 室内機が動かない場合は、Fケーブルの誤接続がないか確認してください。
- 取り付けた部屋の照明を点灯させてリモコンが正常に動作することを確認してください。

据え付けチェック

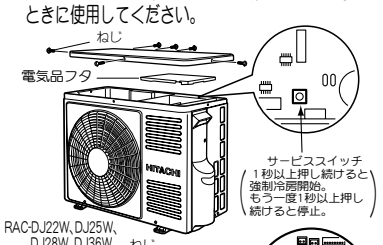
- 右の「ルームエアコン据付点検カード」によりチェックします。

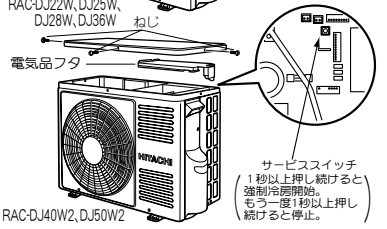
⚠ 注意

- サービスバルブのスピンドルを閉めた状態で5分以上運転しない

強制冷房運転

- 室外機のサービススイッチを1秒以上押すと、強制冷房運転になります。故障診断や、室外機に冷媒を回収するときに使用してください。





サービススイッチ運転での作業が終了したら、必ずスイッチを1秒以上押し続けて強制冷房運転を止めてください。

キ…リ…ト…リ

お客様氏名		様	
(電話番号)	(　　)		
お客様住所			
機　種　名		製　造　番　号	
据付年月日		据　付　担当者	

ルームエアコン据付点検カード

(点検済みの項目の□の中に✓印を記入してください。)

- □ 配管はR410A用を使用しましたか
- □ 真空引きを行いましたか
- □ 輸送部品は、外しましたか
- □ 配管接続部のガス漏れはありませんか
- □ 接続ケーブルの接続は正しく確実ですか
- □ 除湿水は漏れずに、よく排水しますか
- □ 露受皿に除湿水がたまらないような傾斜で据え付けられていますか
- □ 配管接続部の断熱はしましたか
- □ 据付強度はじゅうぶんですか
- □ 化粧カバー（フロントパネル・上下風向板）は確実に取り付けてあり、落下の危険はありませんか
- □ アースは正しくしてありますか
- □ 壁穴に保護パイプをつけましたか
- □ 壁穴部のシールは確実にしましたか
- □ 試運転をしましたか
- □ 取扱説明書の表紙に記載された形式名のうちの、据え付けた形式名の前に○印を付けましたか
  (取扱説明書が2機種以上の共用になっている場合)
- □ お客様に正しい取り扱い方と、運転のしかたを説明しましたか

キリトリ線

サービス記録

年 月 日	サービス内容	サービス担 当 者

キリトリ線から切りはなし、据付時の点検、サービスの記録として、お店で保管、ご使用ください。